# ４／２（火）の発表

報道発表資料の配付日時　　４月２日（火）１０時００分

| | |
|---|---|
| 発表項目（行事名） | 「かみかわゼロカーボンStory」魅力発信プロジェクトについて |
| 概要 | 上川総合振興局では、ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組の一環として、管内自治体や企業・団体などのご協力のもと、管内にある食や自然、産業などの豊富な地域資源について、ゼロカーボンの視点を交えながら、その魅了を追い、ストーリーとして紹介する「かみかわゼロカーボンStory」魅力発信プロジェクトをスタートします。<br>この度、第１弾のストーリーを公表しましたので、お知らせします。<br><br>＜第１弾概要＞<br>【旭川市】デザインの探求と地球環境への想い<br>～進化を続ける旭川家具～<br><br>【鷹栖町】パレットヒルズ<br>～パレットの上でさまざまな色が生み出されるように<br>四季折々の自然を生み出す丘～<br><br>【東川町】地下水で暮らす町<br>～地下水を守ること　すなわちそれは　東川町を守ること～<br><br>＜その他＞<br>・詳細は、当局ホームページの専用ページをご覧ください。<br>URL：https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/184098.html<br>QRコード<br><br>・第２弾以降については、新たなストーリーが完成次第、順次公表していきます。<br>・参考として【旭川市】のストーリーを添付しています。 |
| 参考 | |

| | |
|---|---|
| 報道（取材）に当たっての お願い | ・ゼロカーボンの機運醸成や地域の魅力発信に向けた振興局独自の取組となりますので、積極的な報道をお願いします。 |
| 他のクラブとの関係 | 同時配付<br>同時レク |

| | |
|---|---|
| 担当（連絡先） | 上川総合振興局地域創生部地域政策課（担当者：地域政策課長　天﨑）<br>ＴＥＬ　０１６６－４６－５１２７ |

# デザインの探求と地球環境への想い

## ～進化を続ける旭川家具～

### 旭川市とは

古くからのアイヌの人々の営みと開拓の歴史によって、今日の旭川市の礎が築かれました。

その後、交通の要衝・物流の集積地として発展し、現在は、札幌市に次ぐ北海道の第２の都市であり、医療福祉施設、教育施設、文化施設、公的機関などの都市機能が充実しています。

産業では、食糧供給に重要な役割を担う稲作などの農業や食料品、紙パルプなどの製造業、旭川家具をはじめとした木工、機械金属などのものづくり産業が集積しているほか、北北海道の交通・物流の拠点として、卸・小売業、サービス業などが発展しています。

また、航空路線の充実により、多くのインバウンド客が訪れています。

ここでは、日本五大産地の一つで１２０年余りの歴史がある旭川家具について、紹介していきます。

### 日本屈指の家具生産

旭川市と近隣の東川町や東神楽町、当麻町は80社近い家具メーカーが集積し、多くのデザイナーや職人が活躍する「家具の街」です。生産された高品質な家具は「旭川家具」と総称され、日本の五大産地に数えられ、世界的にも非常に高い評価を受けています。

旭川家具の発祥は、明治時代の中期とされています。陸軍師団の建設に伴い、本州からの建築・建具職人が移住したことや鉄道の開通に伴い、客車整備のための木工場が作られ、机・椅子などが製造されたことが今日の産地形成の起源であり、先人のたゆまぬ努力と家具作りにかける熱い情熱により、日本屈指の家具生産地として飛躍を遂げました。

## 道産材への回帰

大雪山系の森林に囲まれ、気候条件も相まって良質な木材の集積地となっている北海道上川地方。ミズナラ、タモ、イタヤカエデ、近年ではシラカバなど、家具材になる優れた樹木が豊富にあり、道内でも旭川だけで開かれる「銘木市」には、多くの関係事業者が買い付けに集まります。

旭川家具は、元来、道産材活用志向ではありましたが、昭和35年代以降の高度経済成長と輸入自由化の中で、安価な外国産材の使用が高まりました。しかし、世界的に森林破壊など経済活動による森林環境への影響が懸念されており、外国産材の輸送には大量の化石燃料が使われ、環境負荷をかけています。

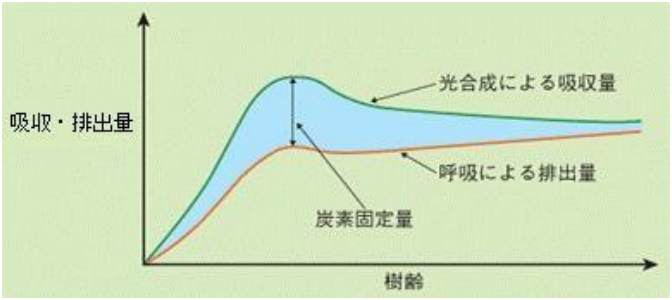
天然資源である木を使う家具だからこそ、地球環境への配慮は重要課題です。できることなら、近くの山から伐り出した木で、家具をつくりたい。「地元の素材と技術を生かした製品づくり」という原点に立ち戻り、産地全体で再び地元、北海道の木を使って家具をつくる取組を進め、現在は約58％が北海道産広葉樹です。

平成26年にスタートした「ここの木の家具・北海道プロジェクト」では、木部の外観表面の80％以上が、北海道で伐採された広葉樹であるものを『ここの木の家具』と定義。

各メーカー共通でクマのイラストのある黄色いタグを付け、「北海道産の木材を使った旭川家具」であることをアピールしています。

## 道産材を使う意義
### ―森林保全とゼロカーボン

森林は二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防ぐ大切な役割を果たしていますが、家具に「木を使うこと」と「森を守ること」は、一見矛盾しているようにみえるかもしれません。




※林野庁HPから抜粋

しかし、健全な森林を育てるためには、成長により過密となった森林内の木の密度を調整する間伐を行いつつ、育てば伐採し、また新たな木を植えるというサイクルが欠かせません。

成長期の若い森林では、樹木は、二酸化炭素を旺盛に吸収します。これに対して、成熟した森林になると、吸収量と呼吸量の差が次第に小さくなり、差し引きの吸収能力は低下していきます。

木を使わないことではなく、「木を伐り使うスピード」を「森が育つスピード」を調和させることが二酸化炭素の吸収量向上には不可欠です。

旭川家具では、長年にわたり“次世代に繋げる森をつくる”を合言葉に、業界全体で植樹をはじめ、枝打ち、下刈り、間伐などの整備を行う森づくりに力をいれています。

『MADE IN HOKKAIDO』という旭川家具の原点を守り、川上である森と川下である旭川家具製造が手を取り合い、持続可能な家具産地づくりと環境負荷の低減につなげているのです。

## デザインへのこだわりとゼロカーボン

旭川家具の特徴は、美しく機能的なデザインです。良質な素材と高度な技術を活かしたシンプルモダンなデザインは世界的にも高く評価されています。

そして、家具メーカーやデザイナーがこだわるデザインの理念は「長く愛されるデザイン」。世代を超えた普遍的な美しさと機能美を追求しており、2代、3代と使い続けることも珍しくありません。多くのメーカーで、家具を使用するうちに生じた木部の傷や色褪せ、椅子張地の擦り切れなどを修理するレストアに対応しているのは、その理念の現れです。

森林には二酸化炭素を吸収し、炭素を固定化する機能があり「炭素の貯蔵庫」と呼ばれています。この機能は、家具となった後も燃やさない限り変わりなく、木製品は「炭素の缶詰」と言われていますが、大量に生産し、廃棄するのでは蓄えられた二酸化炭素が放出されてしまいます。ロングライフの製品を大切に使い、廃棄を減らすことが、二酸化炭素排出量の削減につながるのです。

親から子、子から孫に思い出と共に引き継がれた旭川家具は、子や孫に託された地球の未来をつなぐバトン。長く使い続けて欲しいという旭川家具に込められた理念は、ゼロカーボンの実現にも通ずるものといえるでしょう。

## 旭川家具のこれから

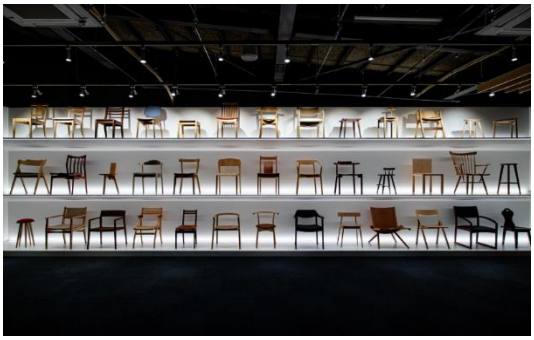
平成2年に始まった「国際家具デザインコンペティション旭川（IFDA）」。3年に1度開催され、これまでの応募総数は世界77か国・地域から9,433点に及び、うち50点以上が旭川家具として国内外に流通しています。世界を目指す家具デザイナーの登竜門として、世界的に高い評価を受けており、家具に誠実に向き合うつくり手とデザイナーを結ぶ架け橋となっています。

令和元年に旭川市は、ユネスコ創造都市ネットワークのデザイン部門での加盟認定を受けました。世界43都市、国内では名古屋市、神戸市に次ぐ3都市目であり、世界に通ずる「デザイン都市」として歩み始めました。

毎年開催される「ASAHIKAWA DESIGN WEEK」（あさひかわデザインウィーク）では、家具・木工を中心に建築や機械金属、食や観光など、ものづくりのまちならではのデザインイベントが目白押し。関係者だけではなく、一般市民、観光客も参加しやすく、「家具のまち旭川」を肌で感じるイベントとなっています。

令和5年には、旭川デザインセンターがリニューアル。旭川家具の技術やデザイン、歴史を学ぶことができるミュージアム空間のほか、デザインコンペティションの受賞作品や歴代の旭川家具の椅子が並ぶ姿は圧巻です。

地球環境への強い想いと、あくなきデザインへの探求。持続可能な家具の聖地を目指し、旭川家具はこれからも進化を続け未来に向けて歩み続けます。



## Special Interview

### 旭川家具工業協同組合理事長
### （株式会社カンディハウス会長）

ふじた　てつや
# 藤田　哲也

## 地球環境とともに歩む旭川家具

旭川家具工業協同組合では、木を大切にする気持ちを示し、より質の高い家具づくりを目指すため、平成19年に「旭川・家具づくりびと憲章」を制定しました。先人によって培われ継承されてきた家具づくりの伝統を大切にしつつも進化発展させながら、地球環境とともに歩み続ける決意表明といってもいいかもしれませんね。

平成26年からスタートした「ここの木の家具・北海道プロジェクト」は、木を長年扱ってきた経験に基づいて自主基準を設け、北海道産広葉樹の使用率を増やし続け、今では５割を超えるまでになりました。全国の家具産地を調べてみても、ここまで地元産材にこだわっている産地はありません。良質な木材産地という北海道、旭川の強みだと思います。

私が会長を務めるカンディハウスの試算では、道産材の活用を進めることにより、海外からの木材輸送時の二酸化炭素排出量を10年前の50％削減できたことがわかりました。近年では、外国での展示販売など輸出も増えていますが、環境にどこまで配慮しているかなどの問い合わせが増えており、世界は日本が思っているよりも環境配慮への意識が非常に高いことを実感しています。

旭川家具の多くのメーカーでは、暖房に化石燃料を使わず加工の過程で生じる端材や樹皮を燃料としたバイオマスを使っていますし、径が細い、節があるなど、従来では加工に適さないとされた材も何度もつなぎ合わせ、加工して製品にすることができるようになりました。木材業界、家具業界、試験研究機関など、いわゆる川上から川下まで地域が一体となって、技術や素材の研究を続け、各メーカーが切磋琢磨し続けているのが旭川家具の強みです。伝統の確かな技術に裏打ちされているからこそ、道産材を大切に活用することができるのです。

そして、近年、力を入れているのが、家具による産業観光です。世界的に認められたデザインや確かな技術があっても、道内外での知名度はまだまだと言わざるを得ません。そこで、令和５年に旭川家具工業協同組合が運営する「旭川デザインセンター」を産業観光拠点としてリニューアルオープンしました。約1,000坪という広大な空間に約30社のメーカーが常設ブースを設けた総合ショップであると同時に、旭川家具の歴史やデザインを学ぶことができるミュージアム機能、自分で作った木製クラフトをお持ち帰りいただける体験工房など、旭川家具の魅了を詰め込んだ発信拠点となっています。北海道で開催されたアドベンチャートラベルワールドサミット（ATWS）では、ポストサミットとして世界中のアドベンチャートラベル関係者の方々に視察をいただきました。家具の発信拠点というだけでなく、家具を通じて旭川の自然や文化を深く知り体験できる施設ですので、国内外の多くの方々にPRしていきたいですね。

## 注目情報

### 「ASAHIKAWA DESIGN CENTER」

旭川家具・クラフトが一堂に集結する複合施設。ユネスコ・デザイン都市である旭川の産業観光拠点として、旭川家具の歴史やものづくりを学ぶことのできるミュージアム。

その他にも体験工房やコレクション展、ブランドブースが設けられており、旭川家具の魅力を存分に味わうことができます。

●住所　　旭川市永山2条10丁目1-35
●営業時間　10時～17時（定休日：毎週火曜日）
●URL　　https://asahikawadesign.com/